

業務そくほう

日本貨物鉄道産業労働組合

2023.10.18

No. 699

2023年年末手当 要求書を提出する

基準内賃金×2.88ヶ月を要求する

本部は、10月16日、要求書を提出しました。以下、報告します。

貨物鉄産労は、2023春闘時期末手当年間4.5ヶ月を要求しており、2023年夏季手当が、1.62ヶ月だったため、その差額2.88ヶ月を要求する。

世界情勢や物価上昇による買い控え等で、JR貨物グループは厳しい舵取りを余儀なくされていますが、このような中においても、組合員は「JR貨物は必ず復活する」を合言葉に、また、国からの指定公共機関の責務として、日々、安全安定輸送に努めており、この難局を労使が一体となって打破していかなければなりません。また、来年には「2024問題」が控えており、JR貨物に対する期待は大きく、組合員の士気を向上させ、この期待に応えていかなければなりません。

2022年度の決算は非常に厳しい結果となり、このままでいけば2023年度決算も非常に厳しい結果になることが想定されますが、貨物鉄産労は会社の経営を常に考え、JR貨物における政策課題解決に向けJR連合と共に取り組んでおり、これまでの経過を踏まえれば、私達の要求に応えられる体力は十分にあると認識します。会社は、「JR貨物グループ長期ビジョン2030」を策定しましたが、構築するためには組合員の協力が不可欠であり、組合員の士気を上げるためにも労働条件改善は必須であります。

以上を踏まえ、会社の状況が大変厳しいことは理解しますが、この難局を労使が一体となって乗り越えていくためにも、私達の主張を理解して頂き満額回答を強く求めます。

なお、要求の趣旨については、次回交渉(趣旨説明)において説明致します。

次回交渉(趣旨説明)は、10月25日(水)を予定しています。

以上